

第1回 富塚中学校運営協議会

令和4年5月16日

14:30~15:30

会議室

開会 開催要件（委員の過半数の出席）確認 <司会：松島、記録：岩邊>

- 1 会長挨拶
- 2 校長挨拶
- 3 新規委員任命書・学校支援コーディネーター委嘱書の交付（机上传達）
- 4 自己紹介 ※氏名 学校との関わりのみ 簡潔に
- 5 浜松市教育委員会から 浜松市学校運営協議会規則 確認
- 6 会長の選出・副会長の指名（会長が指名）
- 7 会長挨拶
- 8 議長の選出
- 9 熟議 <議長： >

（1）学校運営の基本方針について（校長）

（2）夢育やらまいか事業CS加算分に対する意見書について（教頭）

10 連絡

今後の運営協議会予定

第2回 9月 5日（月）13:30~

第3回 11月21日（月）14:30~

第4回 2月22日（水）14:30~

閉会

【令和4年度学校運営協議会委員（10名）】

No.	氏 名	肩 書 等
1	井口 隆夫	富塚自治会連合会会長、西自治会長、健全育成会会長
2	森光 隆明	富塚地区社会福祉協議会会長
3	遠藤 喜和	元公立小中学校長
4	仲村由紀子	育成指導員
5	島田 篤志	元富塚中 PTA 会長
6	加藤 宏史	前富塚中 PTA 会長
7	安間 忠雄	現富塚中 PTA 会長
8	山口 明子	学校支援コーディネーター
9	松澤 久仁美	学校支援コーディネーター
10	行森 瑞恵	学校支援コーディネーター

【事務局側参加者】中津川貴一（校長） 松島雄次郎（教頭） 岩邊三幸（コミスクDC）

堀田洋一（市教委総務課） 野嶋京登（富塚協働センター主任：コミュニティ担当）

【傍聴者】関イチロー

1 国、社会の動向

- 予測困難で急激な変化の時代  Society 4.0（情報化社会）
Society 5.0：経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会
社会を生き抜くための資質・能力の育成
- 新学習指導要領
より良い学校教育を通じてより良い社会を創る 社会に開かれた教育課程
何を学ぶか どのように学ぶか 何ができるようになるか
主体的・対話的で深い学び 3つの柱（評価の3観点）
- 令和の日本型学校教育
「個別最適な学び」と「協働的な学び」 GIGA スクール構想

2 浜松市の教育 第3次浜松市教育総合計画 後期計画（R2～R6）

- 教育理念 「未来創造への人づくり」「市民協働による人づくり」
- 目指す子供の姿 自分らしさを大切にする子供
夢と希望を持ち続ける子供
これからの社会を生き抜くための資質・能力を育む子供
- 3つの重点 コミュニティスクール キャリア教育 教育の情報化

これらを受けて、富塚中学校では

I 校訓・学校教育目標・目指す学校像

1 校訓 「感謝 探究 実践」

（人の気持ちに気づく生徒 分かるまで考える生徒 ためらわずに行動する生徒）

2 学校教育目標

「自ら考え進んで実践し、共によりよく生きる生徒の育成」

3 目指す学校像

個性を認め合い、明るく温かくだれもが安心して生活できる学校

夢と希望、勇気を持ち、主体的に学び、共に成長できる学校

<合言葉> 「1UP」 「共により良く生きる」

生徒訓：「富中プライド」

～当たり前のことを当たり前にする（やってはならないことは絶対にやらない）～

II 今年度の重点

1 授業の充実に向けて

- ・ 学年教科担当を複数で（5教科＋保体）

協働

切磋琢磨

※教材研究の深まり

- ・ ICTの活用 ⇒ 活用事例の洗い出し

※主体的・対話的で深い学びの実現のために

定着度の向上

2 心温まる生徒指導

- ・ 生徒の思いを大切にした生徒指導（生徒の心に寄り添いながら）

×怒鳴る アンガーマネジメント

「大事なこと、厳しいことを伝える時こそ、落ち着いた言葉で」

3 生徒主体の学習、部活、学校行事

- ・ 富中だからこそできる活動 「生徒が主体となり、教師が支援」

4 キャリア教育の深化充実、キャリア教育による人づくり

- ・ 価値ある実践 学んだことを自己の成長に

CS との関わり

5 不登校、いじめの減少（抑制）

- ・ 些細なことでも相談できる関係づくり、心の耕し

6 時間外在校等時間の縮減

- ・ 生徒下校後、1時間30分以内に施錠

- ・ 目指せ月80時間以内（3桁はなし）

☆ 教育課程の工夫、事務作業の効率化 ☆

7 不祥事0・体罰0・不適切な言動0

浜松市教職員・富中教職員としてのプライド